

ゆるしの問題

1. イエスがゆるすように教える

- ☞ 「そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」マタ 18:21-22
- ☞ 「あなたがたも気をつけなさい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」ルカ 17:3-4
- ☞ 「わたしたちの負い目を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように。わたしたちを誘惑に遭わせず、／悪い者から救ってください。』もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。」マタ 6:12-15
- ☞ 「だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。はっきり言うておく。最後のクアドランスを返すまで、決してそこから出ることはできない。」マタ 5:23-26

2. 心の傷の発生とそれに対する人間の反応

- ◆ **心の傷を負わせる体験**（失望や期待はずれの具体的な例）
 1. 裏切られたこと、拒絶されたこと
 2. 別離（自分や両親の離婚、親しい人の死、養子に出されたことなど）
 3. 虐められたこと、嘲笑されたこと、侮辱を受けたこと
 4. 誤解されたこと
 5. 孤独になったこと
 6. 騙されたこと、悪用されたこと、利用されたこと
 7. 暴力や虐待を受けたこと
- ◆ **苦しい体験がもたらす損失**
 - I. 物質的や肉体的損失
 - II. 精神的損失：支配感、安心感、正義感、自尊心、自信、など
 - III. 霊的な損失：信仰、希望、愛、信頼、など
- ◆ **苦しい体験に対する人間の反応**

1. 抑制
2. 発散
3. 代償

- | | |
|---------|-----------------------|
| ・復讐 | ・加害者を真似る |
| ・自己防衛 | ・他人の理解、または憐れみや慰めを追求する |
| ・賠償を求める | ・自己正当化 |
| ・意味を与える | |

📖 「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることができず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと（自分の欲望を満たそうとするだけ）、間違っただけで願い求めるからです。」ヤコ 4:1-3

📖 「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしてしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまとっているという法則に気づきます。」ロマ 7:15-21

3. どうしてゆるすことが難しいのでしょうか？

A. 極端な態度

- 傷を無視したり、軽んじたり、忘れようとしたりすることによってそれを**放っておく**
- 傷を負わせた体験をいつも思い起こしたり、これについて色々な人に話したりすることによって、この傷を常に**いじる**

B. 被害者がゆるさないことから期待する偽りの利益

- 苦しい状態を保つことが自分の防衛のために役に立つ
- 加害者が賠償するように、損失したものを返すように要求すること
- 加害者をコントロールしているような気持が得られること
- 自分の失敗や間違いを苦しい体験や加害者のせいにする（によってより気楽に生きること）

C. ゆるしに関する間違っただけの考え方

- 「自分よりも強い人をゆるす意味がない」
- 「ゆるすことは、悪を軽んじることや加害者を無罪にすることですので、正義に反する」
- 「ゆるすことは、非常に強い意志をもつ人にだけ可能である」
- 「ゆるすことは、一回限りの決断である」
- 「ゆるすことは、苦しい体験を忘れることである」
- 「ゆるすことは、弱さのしるしである」

4. ゆるしとは何でしょうか？

- ① ゆるすことは、加害者のためによりも、被害者のために必要です。
- ② 加害者をゆるすというのは、その人に悪を行う許可を与えることではありません。加害者をゆるしても必要に応じて、この人がそれ以上悪を行ったり、人を傷つけたりしないように、正しいやり方で、出来ることをしなければなりません。
- ③ ゆるすことは、加害者の行為を正しいものや良いものとして認めたり、加害者を無罪にしたりすることではありません。
- ④ 加害者はゆるされても、自分の行為の責任をとらなければなりません。
- ⑤ ゆるすことは、一回の決断ではなく、傷つけられた心（感情、記憶）の癒しの過程の結果です。
- ⑥ ゆるすことは、苦しい体験（不正）を忘れたり、無いことにしたりすることではありません。
- ⑦ ゆるすことは、苦しい体験を、絶対的な悪ではなく、何かの善のために役に立たせる（その中

から善を引き出すことの出来る)、自分の人生の大切な一部として認めて、それを自分の人生に統合することなのです。

このようなゆるしによって傷つけられた人は、自分の人生に悪い影響を与え続けた加害者との(復讐したいとか、加害者に罰を与えなければならないとか、失ったものをこの人に返してほしいと思うことによって結ばれた)不健全な縁を切り、悪循環を破ります。

苦しい体験を受け入れる(善をもたらす可能性のある自分の人生の一部として認める)ことによって、今までゆるさなかったゆえに死んでいた自分の体、精神や霊の一部が生きるようになり、その部分を通して命が流れるようになります。

- ⑧ ゆるすことは、死を拒否することで、命を選ぶこととして真の勝利なのです。
- ⑨ ゆるすことは、自分自身や周りにいる人、加害者に対する、自分の愛の表現なのです。

5. どうしてイエスは、必ず人のとがをゆるすことができましたか。

📖 「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」マタ 6:19-21:33

📖 「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のもものも、未来のもものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」ロマ 8:38-39

- イエスにとって、最も大切な宝物とは、父である神との愛の交わりでした。
- イエスは、ご自分から神の愛を奪い取り、父である神との繋がりを破ることのできる力がないという確信をもっていました。

📖 「イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』」マタ 21:42

📖 「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということをし、わたしたちは知っています。」ロマ 8:28

📖 「罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。」ロマ 5:20

- イエスは、神があらゆる悪から善を引き出す力をもっておられることを知っていました。

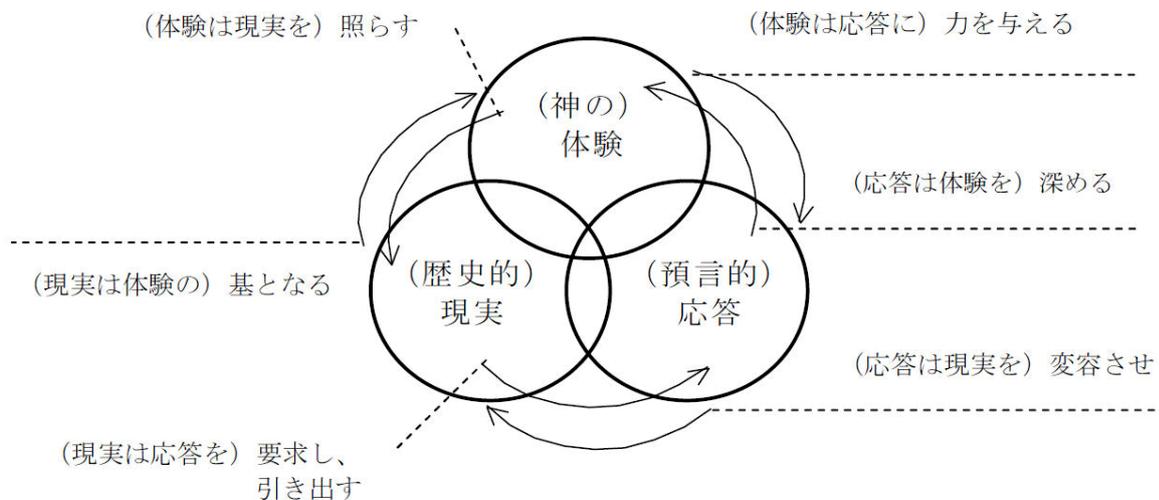
📖 「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」2コリ 5:17

📖 「だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい。「『復讐はわたしのすること、わたしが報復する』と主は言われる」と書いてあります。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる。」悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい。」ロマ 12:17-21

神の怒りに任せなさい = 神の正義と知恵にゆだねる

📖 「わたしは悪人の死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによって、生きることを喜ばないだろうか。」エゼ 18:23

- すべての人を愛しておられる神と正しい関係に生きて、この関係を何よりも大切にし、すべてを神にゆだねている人は、イエスと同じようにあらゆる加害者をゆるすことができる。と聖パウロが信じていました。
- ◆ 精神的な（心の）傷が癒されるために、神には、わたしが受けた悪（不正）を善に変える（悪から善を引き出す）力があり、心の傷（苦しい体験）がわたしの宝になり得ると信じて、自分の苦しみを神にゆだねる必要があります。
- ◆ 自分の苦しみを神にゆだねるとするのは、不正な行動（例えば復讐や罰など）によって、自分の精神的な安定を取り戻すための努力を諦めて、正しい方法によって心の傷を手当（治療）するということです。
- ◆ 体験・応答・現実の相互関係



6. 癒しへの道

A. エリザベス・キューブラー・ロス (Elisabeth Kübler-Ross, 1926 - 2004) 師による安らかな死への心理の5段階

- ✧ 否認 自分が死ぬということは嘘ではないのかと疑う段階である。
- ✧ 怒り なぜ自分が死ななければならないのかという怒りを周囲に向ける段階である。
- ✧ 取引 なんとか死なずにすむように取引をしようと試みる段階である。何かにするだろうという心理状態である。
- ✧ 抑うつ 何もできなくなる段階である。
- ✧ 受容 最終的に自分が死に行くことを受け入れる段階である。

B. この五つの段階をより順調にたどって、自分の死を受け入れて、安らかに息を引き取るために、

- 大切な人に愛されているという実感（確信）、
- 自分の体験やそれに伴う考えや感情について、この人と話すことが非常に重要である。

C. デニス・リン師とマッシュ・リン師によると、苦しい体験によって発生した心の傷が癒される（結果的に加害者をゆるすことができるようになる）ために、同じ五つの段階をたどる必要があるということです。